

経営比較分析表（平成30年度決算）

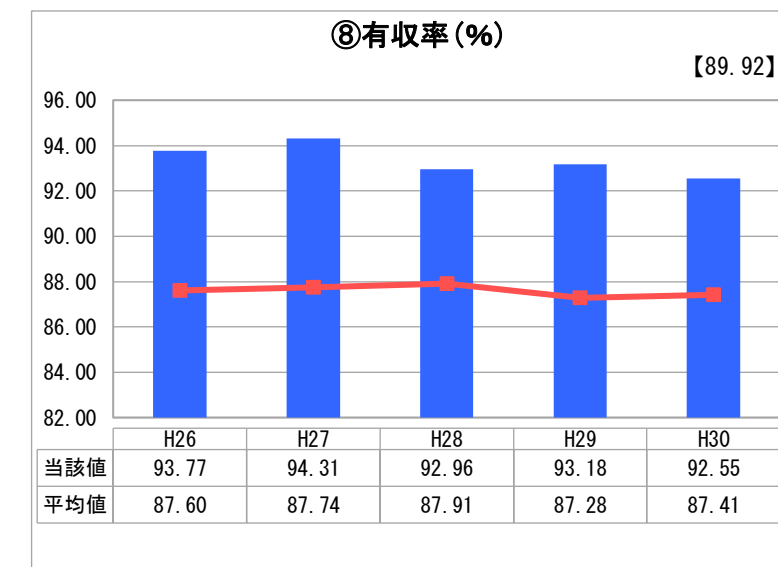
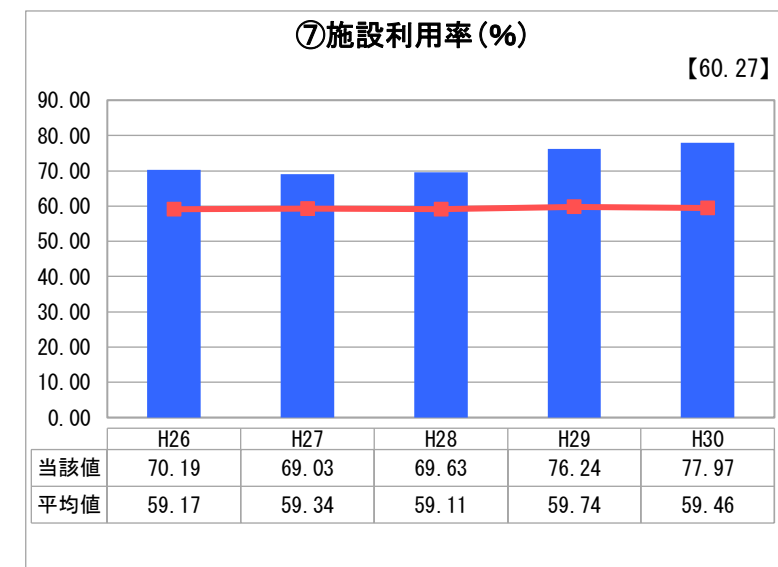
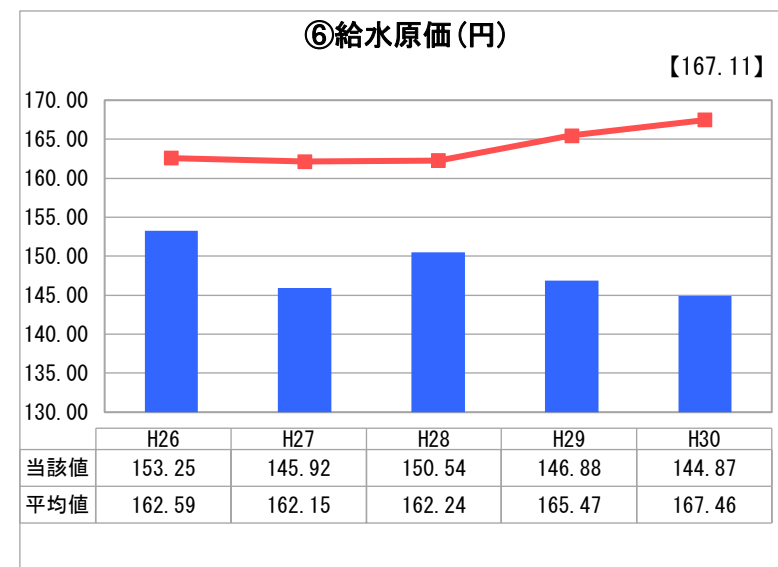
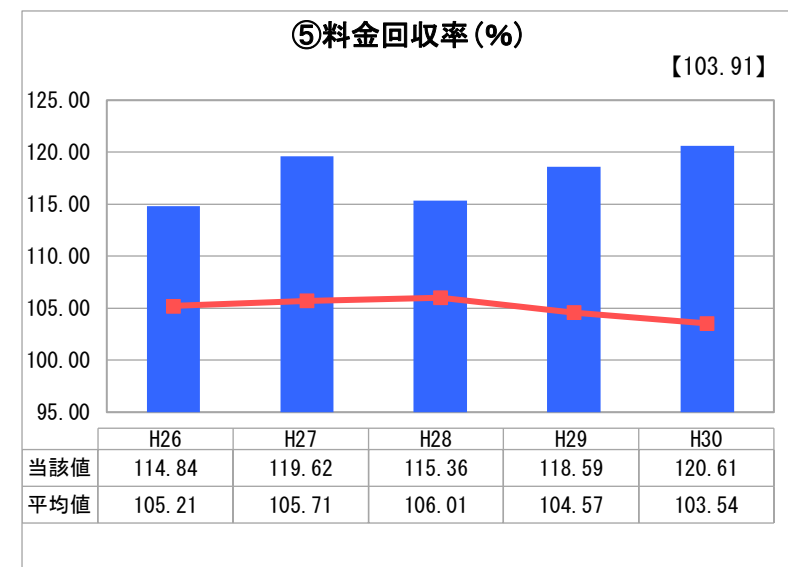
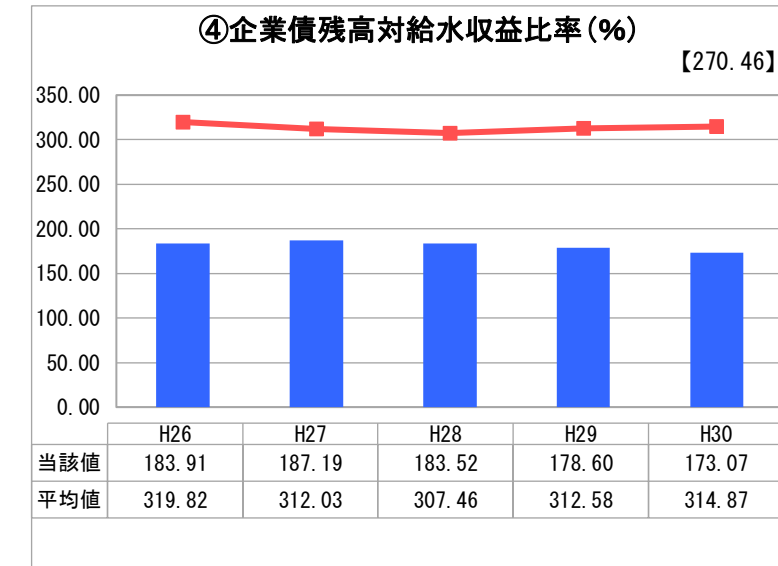
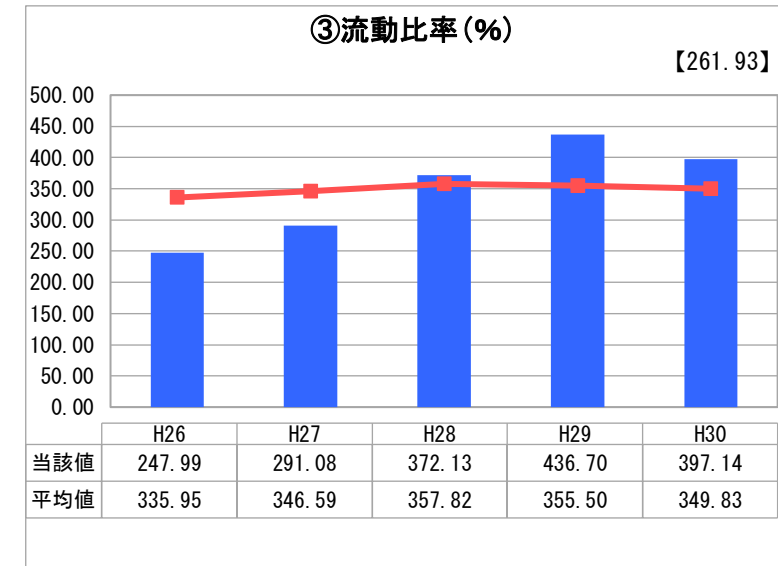
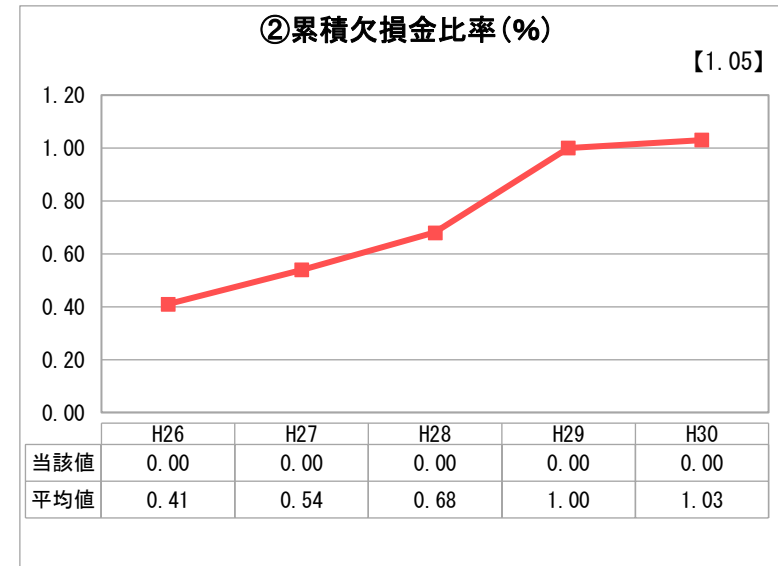
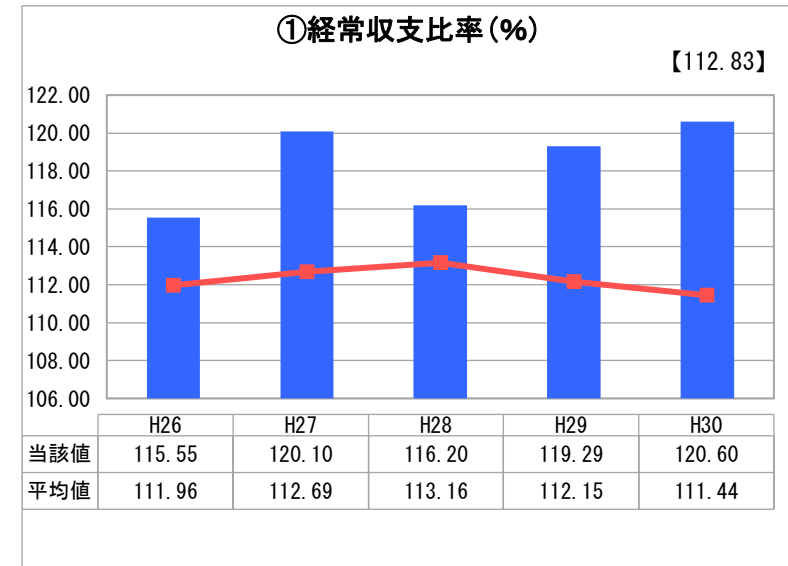
埼玉県 八潮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.26	100.00	2,484	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
90,876	18.02	5,043.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
91,146	18.02	5,058.05

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を超えているが、収益に対し非資金取引である長期前受金戻入が約12.3%を占めている。この状況が続くとやがて資金が底をつくため、更なる費用削減や水道料金の見直しの検討が必要である。

② 流動比率は、100%を超えているため、1年以内に現金化できる資産で1年以内に支払わなければならない負債を賄っており、良好である。

③ 流動比率は、100%を超えているため、1年以内に現金化できる資産で1年以内に支払わなければならない負債を賄っており、良好である。

④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値よりも低く、適切に投資されている。

⑤ 料金回収率については、100%を超えているが、更新投資等に充てる財源を確保するため、水道料金の見直しの検討が必要である。

⑥ 前年と比較して有収水量が増加したこと等により、給水原価が下がった。

⑦ 施設利用率は、平成21年度に策定した水道ビジョンで、今後使用水量が伸びないと判断し、平成29年度に既設の配水ポンプを配水能力を下げたものに更新したため、類似団体と比較しても平均値を上回っており、水道施設を効率的に運営している。

⑧ 有収率は、計画的な管路更新や維持を実施していることから90%を超えており、給水収益に結びついている。

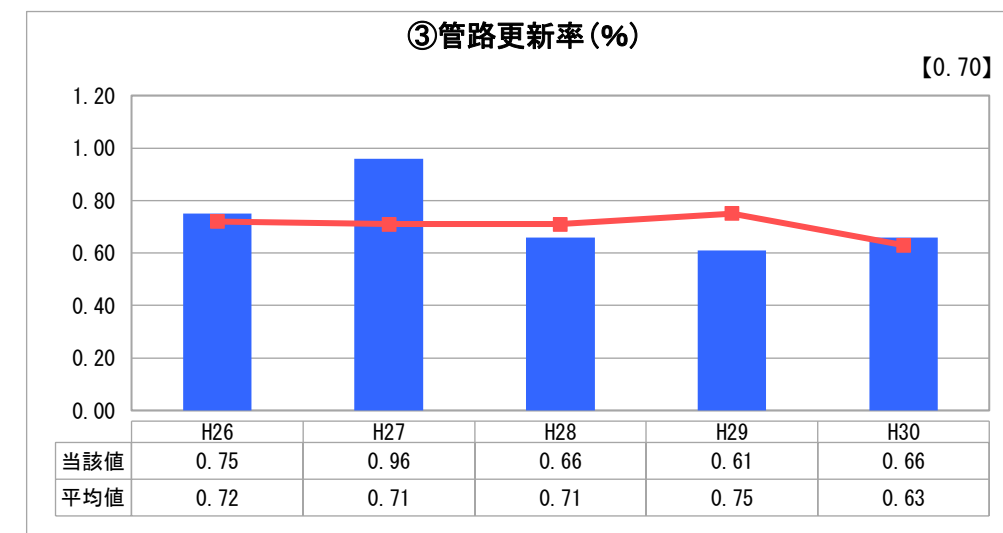
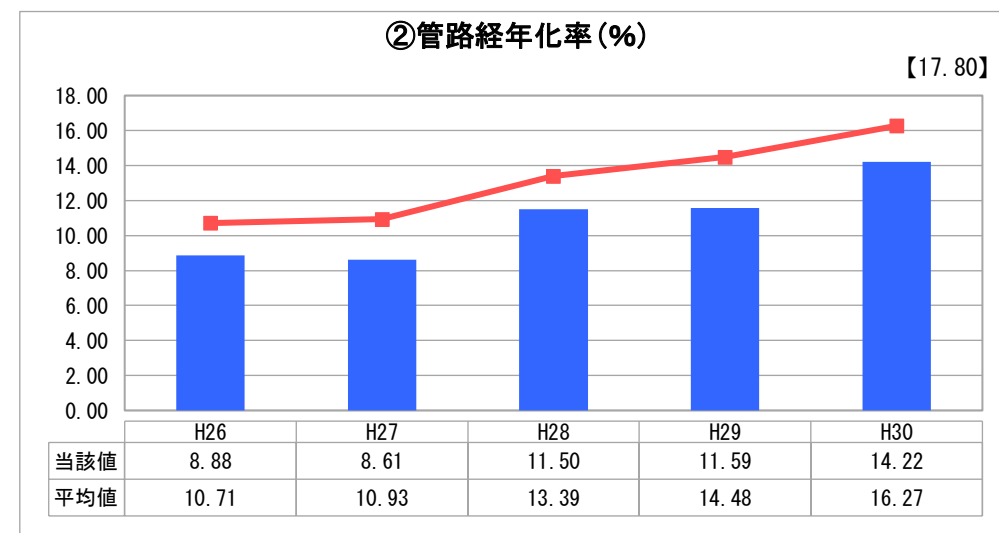
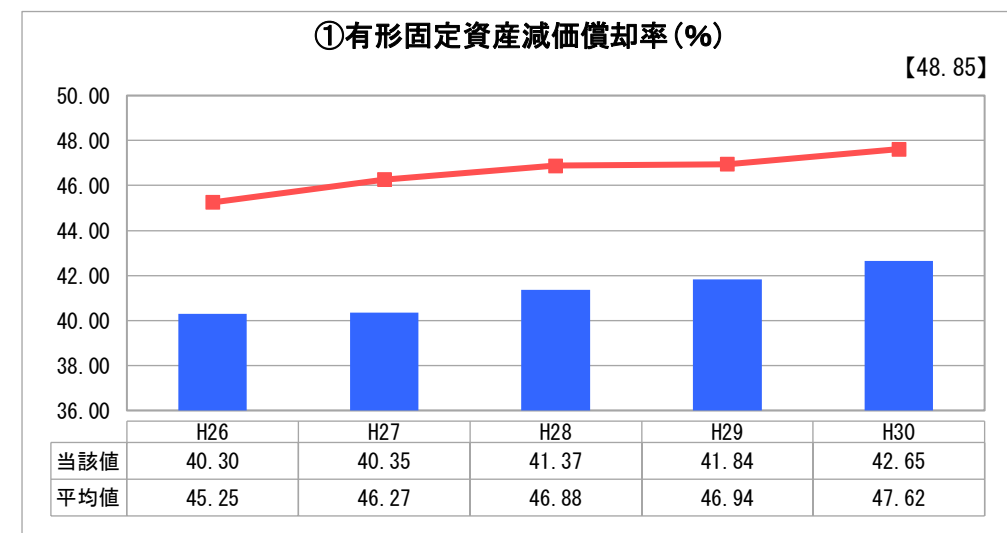
2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、多少の増加傾向にあるが、類似団体平均値よりも低く、施設や管路等の更新を計画的に行っており、良好である。

② 管路経年化率については、計画的に管路を更新しているが、類似団体平均値の増加と同様、昭和50年代に布設された管路が多いため増加している。

③ 管路更新率については、老朽管等の計画的な更新を進めているが、毎年度の事業内容や財源によっては、増減が生じている。平成29年度から基幹管路の耐震化事業に着手し、現時点では類似団体の平均値並みである。

2. 老朽化の状況



全体総括

水道事業の理想像に向け、「安全」「強靱」「持続」の観点から取り組むべき事項等を示した八潮市水道事業ビジョンと将来の投資計画と財政計画を検討する経営戦略を策定し、事業を実施している。しかし、多くの配水管や水道設備が更新時期をむかえ、引き続き厳しい経営状況である。

分析表では、経営の健全性・効率性は、収益に現金の伴わない収入も含まれているが、良好な運営状況である。老朽化の状況では、基幹管路の耐震化事業を引き続き取り組んでいるため、管路更新率は類似団体の平均値並みであった。

今後も、八潮市水道事業ビジョンを踏まえて事業を進めていくとともに、平成30年度から令和元年度の2か年で策定する経営健全化計画の中で、料金改定の必要性やコスト削減などについて継続して検討を進め、経営の効率化に努めていく。